総合診療フェロープログラム「発達・ヘルスプロモーション」専攻シラバス

総合診療部総合診療科 島袋 林秀

■一般目標

- あらゆる月齢・年齢の子どもの発育・発達を社会心理面も含めて包括的に評価するスキルを習得する。
- 発達の異常（発達遅滞および発達障害)、行動の異常の早期発見および早期介入を行うことができる。
- それぞれの子どもの発育・発達・心理社会面を評価したうえで、発育・発達を向上するための、さらには健康を促進するための指導・助言ができる。

■当院の特徴

当院は総合診療科外来にて、発達の異常を主訴として受診する多くの患者対応を行っている。また、心身症を呈し、生活習慣および環境の調整を要する思春期児童も多い。基礎疾患のある子どもは、他科や他職種と連携してその発育・発達を促すべく診療にあたっている。

一方で、健康促進（ヘルスプロモーション）を目的とした一次予防的介入の場は確立できていない。ナショナルセンターとして、あらゆる子どもの健康を促進することが新たな小児科の役割であると示していく必要がある。

■各論：獲得目標

①発育の評価ができる

- 適切に計測を行い、成長曲線を用いて、子どもの発育を評価できる
- それぞれの子どもの年齢・活動度に応じて、適切な必要カロリー・水分量を理解し、助言できる
- 発育不全を呈する病態の鑑別ができる
- 経口摂取困難や嚥下機能障害、経管栄養依存、経腸栄養依存の子どもに対しても、発育を最大限に促すべく栄養のマネジメントができる

②発達の評価ができる

- 発達に影響する健康の社会的因子（例：養育環境、集団保育の有無）を聴取し、評価できる
- 発達評価ツールを理解し、実践できる（デンバー、遠城寺、KIDS など）
- 各種発達検査の適応を理解し、心理士に依頼できる（新版 K 式、田中ビネー、WISC-IV、WPPSI－III、DN-CAS）
- 各種発達スクリーニング質問紙の適応を理解し、実践または心理士に依頼できる（M-CHAT、PARS、AQC、ADHD-R、子どもの強さと困難さテスト（SDQ）等）
- 発達遅滞・発達障害のある子どもへ発達の促し方を指導できる
- 発達遅滞について保護者に説明・カウンセリングできる
- 発達障害について保護者に説明・カウンセリングできる
- 発達遅滞を呈する基礎疾患の有無を評価できる ③前思春期～思春期特有の発育・発達の問題を評価できる

- この年齢の子どもに対して円滑に医療面接ができる
- 身体症状および精神・行動面の症状だけではなく、心理社会面も聴取し総合的に子どもの発育・発達、病態を評価できる

④ヘルスプロモーションのための新たな健診の場を確立する

- 成育健診研究センターの立ち上げに向けた活動の一環として、新たな健診の場を作る
- 社会実装促進のためのパイロット研究事業として行う
  - 産後ケアへの小児科医の関与
  - 2 週間健診
  - 成育 5 歳児健診
    - 健診対象者の社会的情報の抽出と質問紙作成、評価
    - コストの妥当性の検討
    - コメディカルとの多職種連携の検討
    - 自治体や医師会との連携の検討
  - 現在実施を検討している事項
    - 思春期を含む、他の年齢層への拡大の可能性の検討

■研究活動

- 発育・発達を主題にリサーチクエスチョンを考える
- 主に成育 5 歳児健診を通して、ヘルスプロモーションの社会実装促進のため研究を行う
- あらゆる月齢・年齢の健康を損なうリスク因子に関して、データを収集し解析する

■関連学会

日本小児科学会
日本小児保健協会
日本小児心身医学会
日本外来小児科学会
日本小児科医会
その他